

みやぎの

1月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.215 2025.1

紹介内容（12/1～12/31）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 亘理農改：亘理町の齋藤勇紀氏が「令和6年度農事功績者表彰」で「緑白綬有功賞」を受賞されました
 - 大河原農改：JAみやぎ仙南農業法人会研修会で情報提供を行いました
 - 栗原農改：（有）川口グリーンセンターが内閣総理大臣賞を受賞しました
 - 登米農改：内ノ目地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました
 - 石巻農改：～何植える？～深谷東地区高収益作物勉強会
 - 大崎農改：令和6年度農業法人等の労務管理研修会
 - 登米農改：東和町内ノ目地区担い手法人設立に向けた先進地視察研修が行われました
 - 石巻農改：農作物等鳥獣被害対策及び農作業安全講習会、農業者意見交換会が開催されました！
 - 仙台農改：仙台市内のいちご狩り2025年シーズンが始まります
 - 大崎農改：大崎市農業セミナーが盛大に開催されました！
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会のせん定講習会が開催されました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 栗原農改：令和6年度みやぎ農業未来塾 in くりはら「家畜ふん堆肥と緑肥の利用技術研修会」を開催しました！
 - 大河原農改：若手農業者を対象とした経営管理講座を開催しました
 - 亘理農改：ほ場整備事業集積集約・法人化等説明会が開催されました
 - 栗原農改：輝け農業女子！機械セミナーを開催しました
 - 気仙沼農改：女性交流研修会が開催されました
 - 栗原農改：令和6年度リーダー研修会が開催されました
 - 石巻農改：農業者等と農業委員会との意見交換会が開催されました
 - 石巻農改：「海と大地の恵みを食卓へ！とっておきのレシピ教室」が開催されました
 - 美里農改：第5回美里地区みやぎ農業未来塾「土壌肥料研修」を開催しました
 - 仙台農改：女性農業者・新規就農者向け農業機械セミナーを開催しました
 - 気仙沼農改：スマート農業をテーマにした「気仙沼地区みやぎ農業未来塾（学生コース）」を開催しました
 - 美里農改：美里地区生活研究クラブ連絡協議会が移動研修会を開催しました
 - 登米農改：農地整備事業に係る古宿集落農業法人設立事例勉強会が開催されました
 - 美里農改：「スマホで撮る！“映える”写真とSNS投稿講座～伝えたい！楽しさ・美味しさ・美しさ！！～」を開催しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 大河原農改：ブロードキャスタを活用した堆肥散布の実演会を開催しました
 - 大崎農改：色麻町の認定農業者が「スマート農業」について研修しました

④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

- 登米農改：令和6年度第2回登米地域園芸特産振興担当者会議を開催しました
- 亘理農改：農福連携事業を活用したさつまいも熟成貯蔵庫のお披露目会が開催されました
- 亘理農改：岩沼ハウス組合のきゅうり抑制作反省会が開催されました
- 亘理農改：亘理町逢隈地区しゅんぎく相互視察が開催されました
- 大河原農改：水田を活用した露地園芸に取り組もう！品目拡大推進研修会を開催しました
- 栗原農改：第2回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
- 登米農改：JAみやぎ登米花卉部会、ストック専門部で出荷査定会、現地検討会が開催！
- 大河原農改：七ヶ宿町において、補助暗渠施工の実演会が開催されました
- 石巻農改：来年産の高品質なぶどうづくりは剪定から！
- 石巻農改：出荷開始！いちご目揃会開催！
- 美里農改：北浦梨のせん定講習会が開催されました
- 大河原農改：令和7年産に向けポットカーネーションの現地検討会が行われました
- 石巻農改：「今作の収量は？」河北ミニトマト部会実績検討会
- 気仙沼農改：南三陸大粒ぶどう協議会の反省会が開催されました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

- 登米農改：優良な水稻種子の安定生産を目指して！
- 美里農改：次年度に向けて今年の酒米の作柄をしっかりと検討！～松山町酒米研究会作柄検討会～
- 登米農改：令和6年産稲作の総合検討会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 石巻農改：道の駅「東松島」がオープンしました
- 登米農改：登米地区農村生活研究グループ連絡協議会の生活改善交流交歓会を開催しました
- 亘理農改：地域計画の策定が進んでいます
- 大河原農改：宮城の郷土食「はらこ飯」の実習と仙南地区連会員の自慢料理が紹介されました
- 大崎農改：やくらい土産センター栽培管理能力向上研修会「高温対策編」を開催しました
- 仙台農改：仙台市の地域計画座談会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○巨理町の齋藤勇紀氏が「令和6年度農事功績者表彰」で「緑白綬有功賞」を受賞されました

令和6年12月6日

巨理農業改良普及センター



巨理町の齋藤勇紀さんが、公益社団法人大日本農会主催の「令和6年度農事功績者表彰」において、「緑白綬有功章」を受章され、令和6年11月14日に東京の赤坂インターシティAIRにおいて、同法人の総裁である秋篠宮皇嗣殿下ご台臨のもと、表彰式が開催されました。

本有功章の推薦基準は、「農業技術の研究・開発・普及、農業経営の改善・発展及び地域農業の振興に対する功績が顕著と認められること」とされており、齋藤さんが、これまで水稻を主体に、地域農業の中心的な担い手として生産活動に取り組み、さらに、ほ場整備事業を推進するための土地利用調整推進協議会会長等を歴任するなどの活動が評価されました。表彰式後の祝賀パーティーでは、総裁の秋篠宮皇嗣殿下から「お声がけ」があり、直接、励ましのお言葉をいただきました。

普及センターでは、今後も農業者等の農業経営改善と発展及び地域農業の振興に向けた取組を支援していきます。

○JAみやぎ仙南農業法人会研修会で情報提供を行いました

令和6年12月6日

大河原農業改良普及センター



令和6年11月27日(水)に大河原町で開催されたJAみやぎ仙南農業法人会研修会において、令和6年度の気象経過の特徴や水稻の収量・品質への影響、また、令和6年度から仙南管内で本格的に作付けが開始された水稻多収品種「ふくひびき」について情報提供を行いました。

水稻の生育期間中の高温傾向により、管内の出穂期が過去5年平均よりも6日早くなったほか、出穂後も高温が続いたため、成熟期が例年以上に早くなりました。そのため、玄米品質への影響が懸念されましたが、記録的高温年であった昨年よりも管内の一等米比率は良くなる見込みです。

多収品種「ふくひびき」については、「ひとめぼれ」と比較した特性の違いを確認したほか、塩水選や化学農薬による種子消毒の実施、収量を上げるための施肥水準、栽培管理と収穫のポイント等について説明しました。

今後も、管内における飼料用米品種等の安定生産が行われるよう、情報提供等を行うことで、水稻生産者へのサポートを図って参ります。

○(有)川口グリーンセンターが内閣総理大臣賞を受賞しました

令和6年12月9日

栗原農業改良普及センター



令和6年11月23日(土)に明治神宮会館で第63回農林水産祭式典が執り行われ、有限会社川口グリーンセンター(栗原市一迫)が多角化経営部門で内閣総理大臣賞を受賞しました。

同社は、「ふるさとを明るく元気に賑やかに」という方針のもと、中山間の水田地帯で約80haを耕作し、花きの生産や米粉パンの製造・販売、米の通信販売や輸出など、米にこだわった多角的な経営を行っています。

今回は、「米」の付加価値を高める販売展開で水稻部門の規模を拡大したことや、経営の多角化により雇用を創出したことが評価され、受賞に至りました。

この度は誠にありがとうございます！

**○内ノ目地区担い手法人設立に向けた発起人会
が開催されました**
令和6年12月11日
登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区は、令和4年に地域営農構想を策定し、令和7年度には農地整備事業採択に向けた促進計画書を策定する予定の令和8年度採択予定の農地整備事業地区であり、事業目標年度である令和17年度に向けて、新規に設立する担い手1法人に農地を集積・集約化し、整備農地の一部に、新たに高収益作物を作付けする計画としています。このため、当普及センターでは内ノ目地区での法人設立と高収益作物試作の支援を行っています。

令和6年11月29日（月）に、内ノ目地区担い手による発起人会が開催され、関係機関も含めて8人が出席しました。今回はこれまでに話し合われた地域農業の現状と課題を再確認し、法人設立後の将来像等について、広範な話し合いが行われました。今後は12月に予定されている視察研修を通して法人設立後のビジョンを膨らませ、次回の発起人会でさらなる検討を進めることとしています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、内ノ目地区地域営農構想の実現に向けて支援していきます。

○～何植える？～ 深谷東地区高収益作物勉強会
令和6年12月17日
石巻農業改良普及センター



令和6年12月5日（木）に、河南矢本土地区改良区において、宮城県東部地方振興事務所農業農村整備部主催の「深谷東地区高収益作物勉強会」が開催され、生産者や関係者約20人が出席しました。

新規ほ場整備地への「高収益作物の導入」について検討が行われ、「加工用ばれいしょ」や「直播たまねぎ」などの品目が具体的に上げられましたが、機械や労働力の手配などが課題とされました。

その課題に対応すべく、当普及センターから石巻

地域における「加工用ばれいしょ」や「直播たまねぎ」の取組事例を情報提供しました。

ほ場整備地への「高収益作物の導入」は地元だけの課題ではなく、地域全体の課題であることから、当普及センターではこれからも支援を行ってまいります。

○令和6年度農業法人等の労務管理研修会
令和6年12月17日
大崎農業改良普及センター



近年、農業法人等の高齢化や担い手不足が深刻化していることから、これらの課題を解決するために雇用の導入を検討・強化する傾向が強まっています。

加えて、農業経営者にとって、経営を支える担い手を育成し、長く働いてもらう環境を整備することはますます重要となっており、労務管理に関する法令等の幅広い知識の習得が求められています。

この課題解決の一助とするため、管内の農業法人等を対象に、労務管理に関する研修会を12月9日に大崎合同庁舎会議室を会場に開催しました。

『農業法人等の労務管理について』～これからでも間に合う～と題して、県農業経営・就農支援センター等の専門家として、多くの農業者等への支援で実績のあるすずき労務経営コンサルタント代表の鈴木大輔氏から、労務管理のポイントについて講演をいただきました。

従業員を採用する際の、募集・採用から更新終了（定年等）に至るまでの各段階における関係法令を基に雇用者として留意しなければいけないポイントを御教授いただきました。

特に、令和6年に改正された労働基準法等の関係法令に関する労務管理事項や「パート従業員の『壁』」等、タイムリーな話題を含めて丁寧に解説いただきました。

3時間に及ぶ研修会でしたが、参加した皆さんは、熱心に講義に聞き入り、雇用を導入する際の雇用者責任について改めて学ぶ有意義な研修会となりました。

普及センターでは、研修会等の開催を通じて引き続き、農業者等の課題解決を支援してまいります。

○東和町内ノ目地区担い手法人設立に向けた先進地視察研修が行われました
令和6年12月18日
登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区は、令和4年に地域営農構想を策定し、令和5年度から農地整備事業採択に向け受託事業の中で、概略設計、営農計画等を作成中であり、令和8年度採択を目指しています。

また、内ノ目地区の担い手3人と法人参画予定者の2人を含め、担い手法人設立の発起人会を令和6年9月に組織しています。

これまで、担い手法人設立に向けた発起人会で法人の営農形態等を検討してきましたが、この度、具体的な法人経営を学ぶため、令和6年12月16日(月)に、大崎市鹿島台の「有限会社エイト農産」と加美郡色麻町の「農事組合法人下高城ふああむ」を視察しました。当日は、関係機関を含めて5人が参加し、各法人の設立経過や課題、高収益作物導入の際の品目選定、栽培や販売の工夫、補助事業を活用した農業機械類の導入など、広範な研修内容となりました。今後は、この視察研修で得られた情報を参考として、令和8年3月の法人設立を目指し検討を進めていくこととしています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、内ノ目地区担い手法人の設立に向けて支援していきます。

○農作物等鳥獣被害対策及び農作業安全講習会、農業者意見交換会が開催されました！

令和6年12月20日
石巻農業改良普及センター



令和6年12月13日、東松島市役所矢本庁舎において、令和6年度農作物等鳥獣被害対策及び農作業安全講習会並びに農業者意見交換会が地域農業再生協議会及び認定農業者連絡協議会主催により開催さ

れ、参加者はおよそ30人でした。

東部地方振興事務所の農業振興班から東松島市で拡大しつつある鳥獣被害の実態と対策、石巻普及センターからは農作業死亡事故の多い乗用型トラクター、歩行型トラクターの事故要因と防止対策及び近年事故件数が多くなっている熱中症の応急対応などについて説明しました。特に、農業機械による死亡事故の要因は、機種ごとにほぼ特定の要因が高い割合を占めている事と、安全フレームが無い古いトラクター等での事故が多い状況であることを説明しました。更に、宮城県内で発生した過去5年間の農作業事故の事例を紹介しました。

また、東北農政局から米をめぐる状況として、令和6年と7年の需給調整の見通しや水田活用の直接支払交付金等の概要と交付対象水田の水張について説明があり、参加者は熱心に説明を聞いていました。

普及センターは今後も関係機関と連携して、農作業安全や鳥獣害対策などの情報提供してまいります。

○仙台市内のいちご狩り2025年シーズンが始まります

令和6年12月25日
仙台農業改良普及センター



株式会社ベリープラネット(仙台市若林区、代表取締役 深沼陽一氏)は、県事業を活用し、仙台市若林区上飯田地区の仙台ハーベストビレッジに隣接した施設において、令和7年1月5日より新たにいちご狩りを開始します。

ベリープラネットの施設は、県内近郊では例のない、施設の中でイベントや飲食ができる空間を備えた観光いちご農園となっており、すでに海外から利用予約があるなど、集客が期待されています。

また、仙台都市圏の観光いちご農園としては、JRフルーツパーク仙台あらはまが、りんご、なし、ぶどうなどの果樹に加え、いちご狩り施設を今期から増設して12月20日よりシーズンを開始しているほか、1月5日からは(株)一苺一笑松森農場でも、いちごの摘み取り体験が始まります。この他にも仙台市内の数社で、今シーズン中にいちご狩りを計画している生産法人があり、観光いちご農園が仙台都市圏の新たな観光資源となることが期待されます。

普及センターでは、観光事業を取り込む法人等の技術・経営の面から引き続き支援を行ってまいります。

○大崎市農業セミナーが盛大に開催されました！
令和6年12月25日
大崎農業改良普及センター



令和6年12月18日に大崎市担い手育成総合支援協議会が主催した「大崎市農業セミナー」が開催されました。

セミナー前半では、大崎市内で近年取組が拡大している水稲の直播栽培や大豆や子実用とうもろこしを加えた輪作技術について、農研機構東北農業研究センターや県古川農業試験場の研究員からの講演のほか、近隣地域で行っている直播栽培の研究会活動の事例について発表がありました。

後半は、講師や事例発表者がパネラーとなり、当普及センターの大川技術次長をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われ、水稲直播栽培や輪作体系について活発な質疑応答が行われました。

今回のセミナーには生産者約130名が参加し、水稲の直播栽培に対する関心の高さが伺えました。

○JA新みやぎあさひなぶどう部会のせん定講習会が開催されました
令和6年12月26日
仙台農業改良普及センター



12月20日、JA新みやぎあさひなぶどう部会の部会員を対象に、ぶどうのせん定講習会が開催され、11名の生産者が参加しました。

講習会では、普及センター職員が講師となり、せん定の前にぶどうの芽のつき方や枝の登熟程度など基本的な知識の確認を行い、その後実際にせん定のデモンストレーションを行いました。また、今シーズンを通して、疑問点や困ったこと等を話し合いました。ベテラン生産者が経験の浅い生産者にアドバイスをを行う等、部会として成熟した面も見られました。

普及センターでは、今後も引き続き栽培管理や技術指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○令和6年度みやぎ農業未来塾 in くりはら「家畜ふん堆肥と緑肥の利用技術研修会」を開催しました！

令和6年12月2日
栗原農業改良普及センター



令和6年11月20日（水）に、宮城県栗原合同庁舎で、みやぎ農業未来塾 in くりはら「家畜ふん堆肥と緑肥の利用技術研修会」を開催し、新規就農者、農業法人経営者など5名が参加しました。

研修会では、古川農業試験場作物環境部の瀧上席主任研究員から、化学肥料の削減を目指した堆肥と緑肥の活用方法について講演をいただきました。土壌分析結果の活用方法、堆肥や緑肥の施用効果について実践的な内容が多く、参加者は真剣に耳を傾けていました。

○若手農業者を対象とした経営管理講座を開催しました

令和6年12月3日
大河原農業改良普及センター



11月19日に大河原農業改良普及センターでみやぎ農業未来塾「若手農業者経営管理講座」を開催し、新規就農者を含む8人の農業者が受講しました。

講座では普及センター職員を講師として、簿記帳の目的や仕組み、日常の仕訳、簿記特有の会計処理について説明を行いました。農業特有の勘定科目や消費税の複数税率等、難しい内容もありましたが、参加者は熱心に聞き入っていました。

中にはこれから青色申告制度を利用する農業者もいて、今後はそれぞれの状況に合わせて個別に支援してまいります。

普及センターでは会計管理を通して経営改善に取り組む農業者が増えるよう、引き続き支援を行ってまいります。

○ほ場整備事業集積集約・法人化等説明会が開催されました

令和6年12月3日

巨理農業改良普及センター



名取市下余田Ⅱ期地区は、「基盤整備関連経営体育成等促進計画」（以下、促進計画）に基づきながら、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うこととしています。しかし、認識の相違により、ほ場整備後も水稻を作付けしたいと考えている耕作者がいることが分かり、11月26日（火）に集積方法を正確に理解してもらう目的で、担い手部会主催により「集積集約・法人化等説明会」が開催され、担い手部会員、水稻作付け希望者が20人参加しました。

説明会では、始めに仙台地方振興事務所農業農村整備部から「促進計画」の内容と集積方法について説明がありました。次に、普及センターから担い手となる法人化の状況や高収益作物の担い手の状況、これから新たに法人の構成員になる場合の要件について説明しました。最後に、市役所から最も早く工事が終了するエリアから集積が始まるということが説明されました。

質疑応答では、「自分が今まで思っていたことが、説明を聞いて、実は駄目だったことが分かった」「自分達がほ場整備事業を必要としたのだから、集積目標が達成できるように自分達はほ場整備地区外の水田で頑張る」との意見が聞かれ、参加者の理解が深まったと実感しました。

○輝け農業女子！機械セミナーを開催しました

令和6年12月4日

栗原農業改良普及センター



令和6年11月21日（木）に、栗原市一迫で、輝け農業女子！機械セミナーを開催し、11人が参加しました。

初めに、講義では、（株）クボタの菊池技術顧問よ

り野菜機械化体系について、クボタアグリサービス（株）の横田部長より農作業機械の安全管理についてお話いただきました。

次に、講義の内容を踏まえて、ほ場で草刈機、管理機、トラクターの実習を行いました。

普段から農業機械作業を行っている参加者は操作方法を再確認することができ、ほとんど農業機械に触ったことがなかった参加者は挑戦する良い機会となったようでした。

○女性交流研修会が開催されました

令和6年12月5日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の女性交流研修会が令和6年11月29日に開催され、グループ員19人、市町や普及センターが参加しました。

研修会では、最初に講演が行われ、非営利活動法人ウィメンズアイ南三陸事務所の栗林美知子所長から女性の社会参画をテーマに活動の経緯や内容を紹介していただきました。続いて、3班に分かれ、若い世代に継承するための協議会活動についてワークショップが行われました。いずれの班においてもグループ員が積極的に意見を交換して盛り上がり、交流も深めた様子でした。

普及センターでは、これからも生活研究グループの活動を支援していきます。

○令和6年度リーダー研修会が開催されました

令和6年12月9日

栗原農業改良普及センター



令和6年12月3日（火）に、柴田郡川崎町で栗原市生活研究グループ連絡協議会のリーダー研修会が開催され、会員12人が参加しました。

午前は、さつまいもの生産と焼き芋や干し芋への加工・販売を行っている「おいもや芋蔵（いもくら）」

を視察しました。岩淵代表にさつまいもの加工場をみせていただきながら、生産・加工・販売についてのお話をいただき、参加者からはさつまいもの定植や管理、貯蔵方法など様々な質問が出されました。

午後は、商品陳列の工夫や SNS を活用した情報発信、食品ロスを減らすための取り組みを行っている「株式会社生駒農場」を視察しました。生駒代表取締役に取り組みについての説明をいただき、参加者は店内を見回りながら商品の陳列等について学んでいました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援していきます。

○農業者等と農業委員会との意見交換会が開催されました

令和6年12月10日

石巻農業改良普及センター



令和6年12月3日、石巻市河北総合支所を会場に農業者等と農業委員会との意見交換会が開催されました。本会は毎年、石巻市農業委員会と石巻市認定農業者連絡協議会が共催で行っているもので、農業政策等に関する意見交換から要望をとりまとめ、全国農業会議所を通じ国へ提出しています。

今年は「担い手・経営対策」をテーマに意見交換をしたいとのことで、普及センターから「～昔から言ってますけど・・・さすがにもうやりましょう～農業も求められる企業的経営」と題し、安定した農業経営維持のために必要なこと、継続のために必要な人材確保について問題提起しました。併せて、認定農業者、農業法人等が活用できる補助事業等の紹介を行いました。

参加者からは、補助事業をもっと活用しやすくしてほしいという要望が出された一方で、うまく事業を活用するには、家族や社内でのPDCAサイクルが重要だという意見も出されました。

普及センターではこれからも様々な情報提供や問題提起から、農業者とともにこれからの農業経営、農業振興を考えてまいります。

○「海と大地の恵みを食卓へ！とっておきのレシピ教室」が開催されました

令和6年12月17日

石巻農業改良普及センター



令和6年12月11日、J A いしのまき河南総合センター調理室において石巻地域生活研究グループ連絡協議会主催で「海と大地の恵みを食卓へ！とっておきのレシピ教室」が開催されました。本教室は、地域の若手女性農業者グループのベジ☆Hope との交流も兼ねています。

今年度は、漁業者会員を講師に「わかめご飯」と「牡蠣と野菜の甘酢あんかけ」を、農業者会員を講師に「地元野菜たっぷりのはっと汁」と「ブルーベリームース」のレシピと作り方のコツを教わり、地元食材を活用した領地や意見交換など有意義な時間を過ごしました。

石巻地域生活研究グループ連絡協議会及びベジ☆Hope では、一緒に活動する会員を随時募集しております。今後も、会員同士で交流する様々なイベントやセミナーを企画して活動していきますので、興味のある方は、事務局の石巻農業改良普及センター地域農業班までご連絡ください。

○第5回美里地区みやぎ農業未来塾「土壌肥料研修」を開催しました

令和6年12月20日

美里農業改良普及センター



令和6年12月3日（火）に美里農業改良普及センターを会場として、若手農業者を対象とした第5回美里地区みやぎ農業未来塾「土壌肥料研修」を開催しました。

今回は、土づくりへの理解を深めるために、ヤマアグリジャパン株式会社東北支社及び古川農業試験場、当所が講演を行いました。

はじめに、当所先進技術班の齋藤技師より「土壌の基礎知識と土壌分析に基づいた施肥設計について」と題し、土壌の基礎知識や当所で実施している土壌分析と施肥設計の活用について説明しました。

次に、古川農業試験場の小野寺総括研究員より「堆肥活用のポイント」と題し、堆肥の種類や特徴、水田

ほ場で施用する場合の窒素等の減肥について講演いただきました。

最後に、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社の阿部課長より「排水性改善対策のポイントについて」と題し、排水性改善の重要性と実際の対策（明渠、暗渠施工など）について、動画資料を交えながら講演いただきました。また、「カットドレーン mini」の実機展示も行われました。

参加者からは「土づくりの基礎について学ぶことができた」「今回学んだことを自身の営農に活かしたい」等の感想が寄せられ、有意義な研修となったようでした。

普及センターでは、今後も未来塾の開催を通して若手農業者の栽培技術向上等を支援していきます。

○女性農業者・新規就農者向け農業機械セミナーを開催しました

令和6年12月23日

仙台農業改良普及センター



令和6年11月22日に、県農業振興課、亙理農業改良普及センター、仙台農業改良普及センターの共催で、女性農業者および新規就農者を対象とした「輝け農業女子！機械セミナー」を開催し、農業機械の操作、運転等に不慣れな新規就農者など10名が参加しました。

午前中は、農業・園芸総合研究所で農作業安全の講義を受講しました。講師のヤンマーアグリジャパン株式会社の担当者から、農業機械を安全に使用するうえで留意すべき点や点検項目、公道を走行する際の法規制等について映像や写真を用いて説明があり、受講者は熱心に耳を傾けていました。

午後からは、農業大学校のほ場で、管理機や自動操舵トラクターを用いた実習を行いました。受講生からは、自動で位置情報を取得・補正して走行するトラクターについて「こんなにまっすぐ走れるとは思わなかった」などと話していました。

普及センターでは、今後も女性農業者や新規就農者など多様な担い手の育成と早期の経営安定化に向けて支援を行っていきます。

○スマート農業をテーマにした「気仙沼地区みやぎ農業未来塾(学生コース)」を開催しました

令和6年12月23日

気仙沼農業改良普及センター



高齢化や人手不足により重要性が増しているスマート農業技術を身近に感じ、興味・関心を深めてもらうため、令和6年12月4日、宮城県本吉響高等学校の生徒10人を対象に、「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。株式会社南東北クボタNB推進課の山岸孝寛課長及び宮城県農政部農業振興課の庄子一郎スマート農業コンシェルジュを講師に、スマート農業技術に関する講義及び農業用ドローンを使った空中散布の実演を行っていただきました。

実演では、高校の水田ほ場を会場に、山岸課長から農業用ドローンの性能や省力効果、飛行の際の注意点などをわかりやすく説明していただきながら、自動操舵を含む4つの作業モードによる空中散布を実演していただきました。初めて農業用ドローンを見る生徒も多く、実際に飛行する様子を熱心に観察していました。生徒からは、ドローンの活用状況や性能等に関する質問が多く出され、スマート農業技術に関心を深めている様子でした。

普及センターでは、今後も教育機関と連携し、担い手の確保に努めていきます。

○美里地区生活研究クラブ連絡協議会が移動研修会を開催しました

令和6年12月25日

美里農業改良普及センター



美里地域は農産物直売や農産加工、農家レストラン等のアグリビジネスに取り組む農業者が多く、経営管理や組織運営、商品開発など、女性農業者の担う役割が大きくなっています。

そこで、当普及センターが事務局を務める「美里地区生活研究クラブ連絡協議会（会員数33人）」は、仙台市内近郊で生産された野菜や季節の果物、農産加工品等を取り扱うマルシェと、自社生産した農産物の直売所を併設する農家レストランを訪問し、両直売所における取扱商品や陳列方法、6次産業化の取組等について学ぶ視察研修会を12月11日に開催し、14人が参加しました。

はじめに、「アクアイグニス仙台」内にある「マル

シェリアン」で、取扱い商品の種類や内容、陳列と陳列に用いる台や入れ物等に注目しながら、視察を行いました。

多くの商品にその商品や生産者の紹介、食べ方提案等の手書きのPOPが掲示されているとともに、商品は台やトレイに直接ではなく、麻布や色紙を敷いて陳列されているなど、様々な工夫がうかがえました。参加者からは、「目的のものを買って帰る」場所というのではなく、「ゆっくり見て回る・滞在する」場所としての店づくり（内装・陳列）がなされているとの感想が出されました。

次に「農家食堂 神明そば慶」を訪れ、自社及び地域で生産された農産物のPRや消費拡大、付加価値への取り組みを見て・味わって学びました。

こちらは「地域農業に貢献できる経営体」を経営理念に、地域の担い手として水稻や土地利用型作物（そば、大豆、大麦等）、野菜栽培により周年雇用に取り組んでいる「株式会社今慶農産」が経営しています。

新そば「常陸秋そば」の香り・味を楽しみながら、会員相互の情報交換が行われ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて女性農業者の資質向上と活躍を支援します。

○農地整備事業に係る古宿集落農業法人設立事例勉強会が開催されました

令和6年12月26日

登米農業改良普及センター



登米市迫町古宿地区（古宿集落・船越集落）では、農地の再整備による担い手への集積、大区画化（2ha区画）による低コスト化、スマート農業の導入による省力化、高収益作物の生産拡大を目指し、令和6年度農業競争力強化農地整備事業に採択されています。

既に、船越集落では担い手法人が設立され、古宿集落でも担い手による法人化を検討しています。

こういった中、令和6年12月18日、古宿集会所を会場に、集落農業法人設立事例勉強会が開催され、集落の地権者、担い手の14人が参加しました。

今回の勉強会は、隣接している南方町の農事組合法人SFK砥落の先進事例を学ぶため、同法人（企画・総務担当）高橋氏に講師をお願いし、「営農継続」と「生きがい創造」による「くらしの場」の保全をテーマに御講演いただきました。

同法人では、法人化により、機械（トラクター・田植機）の貸出、共同利用、共同作業を行う他、集落内の働きたい農業者には、そのまま働いてもらい、個人所有の機械が故障したら法人所有の高性能機械を使用してもらうという方式を取り入れ、更に、耕作でき

なくなったら法人に委託できるとの安心感を与えています。また、共同機械利用のデメリット解消策を講じて上手に運営しており、その工夫等を勉強することができ、参加者から好評を得ることができました。

普及センターでは、今後も地域の合意形成に向けた取組について支援を行ってまいります。

○「スマホで撮る！“映える”写真とSNS投稿講座～伝えたい！楽しさ・美味しさ・美しさ！！～」を開催しました

令和6年12月27日

美里農業改良普及センター



今年度、県北3農業改良普及センター（大崎・栗原・美里）は、次世代の農業を盛り上げ、引っ張っていくような若手農業者や女性農業者等の多様な人材の掘り起こしと、地区や市町村といった枠を超えた交流によるネットワーク構築を支援することを目的に、合同研修会（全3回）を開催しています。

令和6年12月17日に開催した第2回研修会では、株式会社Live nowの三輪香織代表取締役を講師に招き、「伝えたい！」と感じる農業の魅力や農業・農村の風景、自社商品の魅力などをスマートフォンカメラで効果的に撮影するとともに、より多くの人に向けて発信するためのSNS活用のポイント等について学びました。

講義では、三輪代表取締役ご自身の経験を踏まえたSNSに取り組む際のポイントとして、「目標を定め、その目標に到達するための検証を行うこと」の重要性についてお話いただきました。また、講義で学んだことの実践・共有・振り返りを行うことで、参加者は新たな視点や気づきを得ていました。

なお、第3回研修会は令和7年2月12日に栗原市市民活動支援センターにおいて、「ふぁーみんぐ女子会～ひろげよう、交流の輪！新たな出会いと発見を～」と題し、県北地域で活躍する女性農業者の事例発表と参加者同士の交流会を予定しています。

詳細は後日、各普及センターを通じてお伝えしますが、第1、2回からの継続参加者はもちろん、新たな参加者もお待ちしています！

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○ブロードキャストを活用した堆肥散布の実演会を開催しました

令和6年12月20日

大河原農業改良普及センター



令和6年12月10日(火)に、柴田町において、ブロードキャストを活用した堆肥散布の実演会を開催し、土地利用型の農業法人やJA等の関係機関など27名が参加しました。

近年、化学肥料等の資材高騰による経費の増加などが課題となっており、それらの対応策の一つとして堆肥の活用があります。

しかし、堆肥には「堆肥散布用の機械(マニアスプレッタ等)を新たに導入する必要がある」、「堆肥の流通体制が整備されていない」、「堆肥の品質や使い勝手が悪い」などのネガティブな印象を持つ人が多く、その不安を払しょくする必要があるため、この実演会を開催しました。

前半は、堆肥活用による地力改善効果と水稻収量アップのポイントと題し、今年度、豚ふん堆肥を利用した実証圃の試験結果から、単収が向上したことや肥料費の低減が図られたことなどを普及センターが説明しました。

後半は、今回使用した豚ふん堆肥の特徴とフレコンバックを使用した運搬方法について(株)ヒルズから、また、トラクターに直付けされたクレーンによる堆肥の投入とブロードキャストによる散布について(株)IHI アグリテックから、最後にRTKなどの測位システムを活用した農作業の効率化についてクボアグリサービス(株)から、それぞれ説明いただいた後、機械作業の実演をしました。

参加者からは「堆肥の導入効果が分かった」「堆肥に対する常識が変わりました」などの意見をいただきました。

普及センターでは今後も農業技術の改善に役立つセミナー等を開催してまいります。

○色麻町の認定農業者が「スマート農業」について研修しました

令和6年12月23日

大崎農業改良普及センター



令和6年12月15日に色麻町認定農業者連絡協議会研修会が色麻町農村環境改善センターで開催され、町内の認定農業者等20人が出席しました。

研修では、県農業振興課スマート農業コンシェルジュの庄子一郎氏から「宮城県におけるスマート農業」と題して、スマート農業の技術事例や活用のメリット、RTKシステム、実装に向けた調査や研究などについての講演がありました。

出席者からは、「まくら地まで自動で作業できるのか」とか「太陽フレアの影響は」などといった具体的な質問がありました。また、「人手不足解消に役立つ技術レベルになるまでかなりの年数が必要だ」という意見や、逆に「若い人に農業に参入してもらうにはスマート農業のような先進技術を導入して関心をもってもらうとか、経験が少なくても熟練者並みの作業ができるなど、導入のメリットがある」という意見が出されました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携して、認定農業者をはじめとした地域農業の担い手への支援を行ってまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○令和6年度第2回登米地域園芸特産振興担当者会議を開催しました

令和6年12月3日

登米農業改良普及センター

令和6年10月8日に第2回登米地域園芸特産振興担当者会議を開催しました。会議では、登米圏域園芸振興アクションプランの進捗状況について、JAみやぎ登米、JA新みやぎ、農業共済組合、土地改良区の担当者とともに検討を行いました。特に、管内では農地整備事業と連携した「加工用ばれいしょ」の生産にも取り組んでおり、その状況や今後の対策等について、様々な意見が出されました。

園芸分野では、資材や燃料価格の高止まり、気候変動など厳しい環境下にあります。普及センターでは引き続き関係機関と連携し、登米地域の園芸振興を進めてまいります。

○農福連携事業を活用したさつまいも熟成貯蔵庫のお披露目会が開催されました

令和6年12月5日

巨理農業改良普及センター



11月29日(金)「ノウフクの日」に名取市にある障がい者就労支援施設「一般社団法人こねくと ラ・フリーズ(以下、ラ・フリーズ)」でさつまいも熟成貯蔵庫と作業場のお披露目会が開催されました。収穫されたさつまいもは、腐敗防止のため温度30～35℃、湿度85～90%で4日間処理してから、13℃の定温庫で熟成させることで、より甘くなると説明がありました。

ラ・フリーズは、いちご、ぶどう、さつまいもの栽培に取り組んでいる障がい者就労支援施設です。さつまいもは名取市北釜地区で栽培されていた「仙台金時」を2年前に引き継ぎ地元の生産者から技術指導を受けて栽培しています。

お披露目会では、名取市長から障がい者の方々が適正な賃金を得て働き、活躍できる場として期待しているとの祝辞を述べられていました。代表からは、さつまいも栽培の経過について、地元の生産者や働いている方からの感想をもらいながら報告されました。その後、さつまいも収穫の実演と施設見学が行われました。

当普及センターでは、今後も農福連携の活動を支援していきます。

○岩沼ハウス組合のきゅうり抑制作反省会が開催されました

令和6年12月5日

巨理農業改良普及センター



名取岩沼地域は、きゅうりの周年産地です。7月から11月まで栽培・出荷を行う抑制作型の終盤となり、

令和6年11月12日(火)に「岩沼ハウス組合抑制作反省会」が開催されました。

各組合員からは、夏季高温下で栽培に苦慮したことや9月の曇雨天での管理が難しかったこと、またウリノメイガの防除に苦慮したこと等の反省点が挙げられました。他方、コーヒー残渣を活用した土壌還元消毒を実施したことにより「ホモプシス根腐病の発生が全ほ場で抑制された。」との嬉しい報告もありました。

当普及センターからは、次作に向けた土壌分析診断書の説明を行いました。以前よりも土壌中の肥料分の蓄積は抑えられているものの、苦土加里比や石灰苦土比を適正に保つ肥料の種類や施肥量について熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。

当普及センターでは、きゅうりの安定生産に向け、引き続き支援していきます。

○巨理町逢隈地区しゅんぎく相互視察が開催されました

令和6年12月5日

巨理農業改良普及センター



管内のしゅんぎくは、昭和40年代初め頃から巨理町を中心に栽培が始まり、生産量は年間90トンにのぼり、周年出荷の産地として消費者・実需者からの人気も高く、主に京浜や仙台市場に出荷されています。

本格的な秋冬期の出荷シーズンを前に、生産者同士のほ場を視察しながら技術研鑽を行う目的で相互視察が開催されました。

当日は、3戸の農家を訪問し、灌水方法、追肥方法等の管理のポイントを各生産者から説明していただきました。出席した生産者からも技術的な情報交換が積極的に行われ、しゅんぎくの実産歴が長いベテラン農家らしい経験や工夫に富んだ技術について教えていただき、活発な情報交換となりました。

当普及センターからは、栽培管理のポイントや生理障害、病害虫の見分け方等について資料に基づき情報提供を行いました。

当普及センターでは、しゅんぎくの安定生産を引き続き支援していきます。

○水田を活用した露地園芸に取り組もう！品目拡大推進研修会を開催しました
令和6年12月9日
大河原農業改良普及センター



11月18日、柴田町のJAみやぎ仙南本店大会議室において「仙南地域における水田を活用した露地園芸品目拡大推進研修会」を開催しました。

研修会では宮城県農業・園芸総合研究所から、ばれいしょ、たまねぎ、さつまいもなどの水田を活用して栽培する露地園芸品目を導入するための経営シミュレーションシステム「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き」について説明しました。これは水稲や大豆などの土地利用型作物と園芸作物を組み合わせ、各作物の栽培規模に応じた労働力、経営収支を計算できるシステムで、水田をベースに農業経営を進める経営体において活用が期待されています。

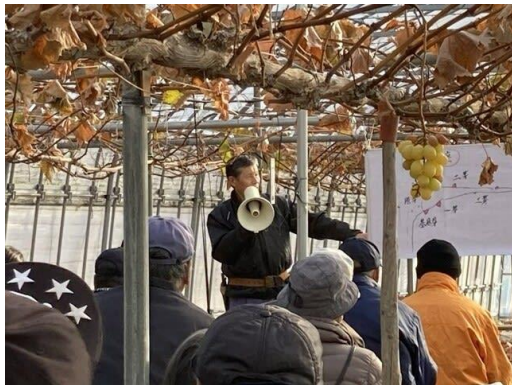
続いて当普及センターから管内で栽培されている露地園芸品目の状況報告を行うとともに、JAみやぎ仙南からは、たまねぎを中心とした露地園芸品目への取組状況について説明がありました。

また、実践事例として水田でばれいしょを栽培している東松島市の農事組合法人「おしお北部」の大崎康代表から大豆や飼料作物等との輪作体系や耕畜連携体制、機械化一貫体系への取組についてご講演いただきました。

研修会には、水田における高収益作物として園芸品目の導入を検討している農地整備事業実施地区及び予定地区の農業法人や農業者、関係機関等およそ90名が参加し、熱心に聞き入っていました。

普及センターでは、引き続き水田を活用した露地園芸品目に取り組む経営体を支援して参ります。

○第2回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
令和6年12月10日
栗原農業改良普及センター



令和6年12月6日（金）に栗原市金成で「第2回シャインマスカット栽培技術研修会」を開催し、シャインマスカットの生産者や今後導入予定の方々、合わせて60人の参加がありました。

当日は、現地ほ場の園主である田中学さんを講師に、田中さんが作成した資料に基づき、今年の生育概況とせん定に当たってのポイントについて説明を行い、その後実際せん定について実技を行いました。出席者からは、「どのようにせん定を進めれば良いか理解でき、大変参考になった。」との感想が聞かれました。

なお、生産資材のうち実際に使用している栽培管理用の果実袋や出荷袋の紹介や電動のせん定鋏などの情報提供もありました。

普及センターでは、今後もシャインマスカット等のぶどう栽培技術の向上に取り組んでまいります。

○JAみやぎ登米花卉部会、ストック専門部で出荷査定会、現地検討会が開催！
令和6年12月11日
登米農業改良普及センター



令和6年12月5日に、年末の出荷に向けて、JAみやぎ登米花卉部会ストック専門部の出荷査定会、現地検討会が行われました。

出荷査定会はJAみやぎ登米北方支店で行われ、生産者15人が参加しました。始めに、株式会社仙花の担当者から市場の動向や出荷時の注意点について説明があり、その後、参加者は当日出荷されたストックを実際に見ながら気を付けるべきポイントを確認していました。

現地検討会では、栽培中のストックを前に、本年の生育の特徴や病害虫の発生状況について活発な情報交換が行われました。

普及センターからは病害虫についての資料の提供及び説明、農薬の適正使用について情報提供を行いました。特に農薬の適正使用については、薬剤耐性及び抵抗性の発達を防ぐためのローテーション散布を呼びかけました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○七ヶ宿町において、補助暗渠施工の実演会が開催されました
令和6年12月17日
大河原農業改良普及センター



令和6年11月26日（火）に、七ヶ宿町において「RTK活用による補助暗渠施工実演会」が開催されました。当管内では、園芸作物を栽培する上でほ場の排水対策が課題となっており、補助暗渠を導入することで今後栽培する作物のさらなる生育改善が見込まれます。

実演会は農業者や関係機関など約60名が参加し、七ヶ宿町、ヤンマーアグリジャパン株式会社、宮城県農業・園芸総合研究所の協力のもと、カットドレン（穿孔暗渠機）及びカットブレーカー（全層心土破碎機）による補助暗渠施工が実演されました。カットブレーカーは、RTK（衛星測位情報を利用して位置情報の精度を上げる技術）の自動操舵システムを用いたトラクターにより施工が行われました。出席者からは、けん引するトラクターの馬力や施工する方向等の具体的な質問が出され、個人農家でも取り組みやすい補助暗渠の施工に興味を示していました。

普及センターでは、今後も管内におけるスマート農業の導入や排水対策等による作物の生育改善に向け支援してまいります。

○来年産の高品質なぶどうづくりは剪定から！
令和6年12月19日
石巻農業改良普及センター



令和6年12月17日、JAいしのまき主催で直売所等にぶどうを出荷している生産者14人を対象に剪定栽培講習会が開催され、普及センター職員が講師として指導を行いました。

初めに、芽の付き方や犠牲芽剪定の方法、短梢剪定における1芽剪定と2芽剪定のメリットやデメリット、結果母枝の配置の考え方など基本的なことを確認し、次に、実際にシャインマスカットの樹を見ながら、結果部が空いているところがないかの確認とあった場合の対処法、新梢を20から30cm程度で切除する「あら剪定」、そして最後に本剪定の実演を行いました。また、翌年の病害虫発生抑制のための落葉処理や巻き付いた蔓の撤去についても指導しました。

落葉も終わり、殆どの生産者がこれから本格的な剪定シーズンを迎えます。当講習会で得た知識や技術を活かし、来年産の高品質なぶどうづくりに向けて的確に剪定が実施されるよう期待しています。

○出荷開始！いちご目揃会開催！
令和6年12月20日
石巻農業改良普及センター



令和6年12月10日に、令和7年産河南いちご部会出荷目揃会が、部会員と(株)石巻青果、JAいしのまき、普及センターの出席のもと行われました。本格的な出荷を前に、石巻青果からは本年産のいちごの市場情勢について情報提供があり、JAからは出荷規格やクリスマス業務対応、時期別のカラーチャートなど出荷時の留意点について説明がありました。普及センターからは、厳寒期のハウス管理や病害虫防除について情報提供を行い、適切な栽培管理が行われるよう指導しました。

本年作は、8月の猛暑の影響で花芽分化の遅れやバラツキ及び一部では炭疽病の発生が見られましたが、定植後は日照不足の時期があったものの10月以降は気温が高めで推移したことから生育は順調に進み、収穫は例年並みの11月下旬から始まりました。

○北浦梨のせん定講習会が開催されました
令和6年12月20日
美里農業改良普及センター



J A新みやぎ北浦梨部会（部会員 35 人）は、令和7年産の高品質な果実生産に向けて、12月6日にせん定講習会を開催しました。

昨年に引き続き、利府町の日本なし生産者・引地龍夫氏を講師に招いて開催し、部会員 18 人が参加しました。

始めに、昨年と同じ「幸水」及び「あきづき」の樹を引地氏がせん定するとともに、昨年からの変化や今回せん定を行うに当たってのポイントについて解説をいただきました。昨年のせん定で2～3年利用した「結果枝」を一気に更新するとともに、今年の新梢管理と着果量のバランスがとれたことで、来年から果実生産を行う結果枝に花芽がしっかりと着くとともに、来年1年かけて結果枝へと育てるための「予備枝・待ち枝」候補枝が適当な間隔で発生しており、参加者は一連の講習会の成果をしっかりと確認していました。

また、普及センターからは果実肥大や病虫害発生の振り返り等、令和6年産の総括を行うとともに、プロジェクト課題で取り組む情報受発信ツールの概要説明と参加誘導を行いました。

普及センターでは、今後も大正時代から続く特産品である「北浦梨」の安定生産に向けて部会活動を支援していきます。

○令和7年産に向けポットカーネーションの現地検討会が行われました
令和6年12月23日
大河原農業改良普及センター



柴田鉢花研究会では、母の日に向けポットカーネーションの生産に取り組んでいます。

12月10日にはポットカーネーション現地検討会が開催され、種苗メーカー、関係機関等13人が参加

し、ほ場で生育状況を確認しながら今後の栽培管理について意見交換を行いました。

販売の主力となる5号鉢は、9月下旬～10月中旬に苗が定植され、現在は植え替えやピンチ（摘心）など、品種に合わせた栽培管理を行っており、順調に生育しています。

来年の4月上旬から県内外の消費地に出荷される予定です。

○「今作の収量は？」河北ミニトマト部会実績検討会
令和6年12月23日
石巻農業改良普及センター



令和6年12月10日にJ Aいしのまきミニトマト部会河北北上支部出荷実績検討会が生産者と種苗会社、J Aいしのまき、普及センター等出席のもと、開催されました。

今作も花飛びや着果不良はあったものの、前作より収量が向上した生産者もあり、単価も高く推移したため、前年より良い実績となりました。

今作の生育状況や他産地の状況を踏まえた次年度への改善点などについて種苗会社から情報提供がありました。

今夏は、昨年と比べると気温は若干低く推移しましたが、例年よりは暑い年となり、今後も高い気温での推移が想定されることから、普及センターからは被覆資材の使用や灌水回数の調整などの高温対策について説明しました。さらに、管内で発生が確認されているトマトキバガ等の病虫害について情報提供をしました。

普及センターでは、今後も河北地域のミニトマト生産を支援していきます。

○南三陸大粒ぶどう協議会の反省会が開催されました
令和6年12月23日
気仙沼農業改良普及センター



南三陸大粒ぶどう協議会の今年のぶどう栽培や販売についての振り返りを行う反省会が令和6年11月29日に開催され、協議会員10人が参加しました。最初に、協議会の阿部博之会長から、「昨年協議会を設立し、今年から「しおかぜ葡萄」として販売することができた。成果は大きい課題も多い。今回は問題点の反省と対策をしっかりと検討したい。」との挨拶がありました。その後、普及センター職員から、栽培面、販売面等についての課題や来年に向けた改善点の提案等を説明した後、参加者で話し合いを行い、課題解決のための対策や来年行うべき取組などについて多くの意見が出されました。協議会では、今回出された意見をもとに来年の活動計画を定め、「しおかぜ葡萄」のさらなる生産・販売力の向上を目指していくこととしています。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○優良な水稻種子の安定生産を目指して！

令和6年12月13日

登米農業改良普及センター



令和6年12月11日に、令和7年産の水稻種子生産に向けて、JAみやぎ登米水稻種子採種組合の栽培講習会が開催されました。

はじめに、普及センターから優良種子の3つの条件とそれらに係る栽培管理のポイント、本年度の審査状況等について説明しました。次に農薬メーカーから、次年度使用予定の除草剤について、現地試験結果も交えた説明がありました。

JAみやぎ登米水稻種子採種組合では、令和6年度に「ひとめぼれ」55.8ha、「だて正夢」6.4haで種子栽培を行い、「ひとめぼれ」については、令和7年の作付け増加が見込まれることから契約数量以上の優良種子を出荷する予定です。

普及センターではJAや採種組合と連携しながら、次年度も優良種子の契約数量出荷を達成できるよう支援を行ってまいります。

○次年度に向けて今年の酒米の作柄をしっかりと検討！～松山町酒米研究会作柄検討会～

令和6年12月19日

美里農業改良普及センター



松山町酒米研究会（以下「研究会」）では、大崎市松山地域で地元酒蔵の（株）一ノ蔵と連携しながら酒米づくりに取り組んでいます。

12月14日に「松山町酒米研究会令和6年産酒米作柄検討会」が開催され、普及センターからは今年度の水稻の作柄全般について説明を行い、続いて酒米の品質向上に向けて農機メーカーや肥料メーカーと連携しながら取り組んだ調査結果などについて報告しました。

本年産の酒米の作柄は、前年同様に高温傾向となったため、肥料切れが早まり、成熟期には雨のたびに倒伏が進むなど、気象要因に悩まされました。一方で、日照が確保され出穂後の水不足などは見られず、生産者の適切な管理により、胴割粒が少ないなど品質は昨年より改善されました。

作付面積が増加している県育成品種の「吟のいろは」については、心白発現率及びタンパク質含有率ともに平年並みで、収量・品質共に安定した結果となりました。

生産者からは、「今年度は特に主食用米の米価の影響が大きいですが、安心して作付けができるように、引き続き特段の協力をよろしくお願ひしたい。」といった意見が出されました。

普及センターでは、引き続き研究会の活動を支援し、特色ある米づくりを推進していきます。

○令和6年産稲作の総合検討会が開催されました

令和6年12月23日

登米農業改良普及センター



令和6年11月29日にJAみやぎ登米稲作経営部会の総合検討会が、12月13日にはJAみやぎ登米米山水稻部会の総合検討会がそれぞれ開催されました。

稲作経営部会では、部会として肥料試験に取り組んでおり、令和6年度の試験結果について部会員から結果の発表があり、その収量結果について各部会員が考察を述べるなど充実した検討となりました。米山水稻部会では、普及センターから設置してい

る生育調査ほの収量結果を交えながら令和6年産稲作の総括を説明しました。また、本年は紋枯病の発生が多かったため、令和7年産に向けてのポイントの1つとして、来年作では防除を行うよう注意喚起を行いました。

あわせて、両総合検討会において普及センターのプロジェクト課題である「グリーンな栽培体系」の取組について、情報提供をしました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

2. **持続可能な農業・農村の構築**

① **地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**

○道の駅「東松島」がオープンしました 令和6年12月2日 石巻農業改良普及センター



令和6年11月27日、三陸自動車道上り線本木パーキングエリアに連結し、三陸道からも一般道からも乗り入れ可能な道の駅「東松島」がオープンしました。

オープン当日は、駐車場が満車になり、店内へ入場する列は最後尾が見えないほど多くの人々が訪れており、大盛況でした。

道の駅「東松島」では、海苔や牡蠣などの水産加工品や地元でとれた新鮮な野菜、東松島市の特産品等、約1,200種類が販売されています。また、航空自衛隊の松島基地に所属するブルーインパルスを見ながら食事ができる展望デッキが設置されているほか、仮想現実（VR）でブルーインパルスの搭乗体験ができるコーナーもあります。

東松島市では、年間100万人の来場を見込んでおり、この道の駅が観光の拠点となることを目指しています。皆様もぜひ足を運んでみて下さい！

○登米地区農村生活研究グループ連絡協議会の生活改善交流交歓会を開催しました 令和6年12月3日 登米農業改良普及センター



令和6年11月27日（水）に登米地区農村生活研究グループ連絡協議会の生活改善交流交歓会（料理講習会・情報交換会）を開催しました。

今回は米山町のHAIJIを会場に、オーナーシェフの菅原和哉氏からジンジャーシロップ、クミンのキャロットラペ、ミネストローネの3種類のメニューの調理方法を教わりました。参加した会員からは、「地元の旬の食材をおしゃれに調理する方法を学べた」、「普段使わない調味料を家でも挑戦してみたい」等といった感想をいただきました。

情報交換会では、会員同士が自営での事例を紹介したり提案しあったりする等とても有意義な時間となりました。

普及センターでは、今後も生活研究グループをはじめとした女性農業者等の活動を支援してまいります。

○地域計画の策定が進んでいます 令和6年12月4日 亶理農業改良普及センター



地域計画の策定期限があと4か月と迫る中、当普及センター管内の各市町での策定作業が進んでいます。

11月に名取市と亶理町において地域計画（案）の説明会が開催され、岩沼市では、沿岸部地区での協議の場が開催されました。また、岩沼市と山元町では、12月から1月にかけて地域計画（案）の説明会を予定しています。

協議の場や説明会に参加した担い手の方々は、急速な農業従事者数の減少に危機感を持っており、地域農業の衰退に歯止めをかけることの重要性を認識していました。今後、1月以降に関係者への意見聴取を行うこととしています。

普及センターでは、各市町において地域の実情に即した地域計画が策定されるよう支援してまいります。

**○宮城の郷土食「はらこ飯」の実習と仙南地区連
会員の自慢料理が紹介されました**
令和6年12月10日
大河原農業改良普及センター



令和6年10月30日村田町中央公民館において、仙南地区生活研究グループ連絡協議会が研修会一宮城の郷土食を伝承一を開催し、「はらこ飯」の調理実習を行いました。また、併せて会員の自慢料理の紹介が行われました。

「はらこ飯」は、鮭が出回る季節になると会員がそれぞれの家庭で作っているものの、より美味しく簡単な調理法を検討しており、情報収集が行われていました。

今回、会員が講師となって作った「はらこ飯」は、美味しい一品となり、参加者からも好評で、「提供する際の参考になったので、早速実践する」との声も上がりました。

また、各グループから紹介された自慢料理は、村田町からは山菜を使用した煮物やサツマイモのきんとん等、柴田町からはキクの酢の物やまめ味噌等、丸森町からは干し柿を入れたおこわ等地域の産品を活かしたもので、会員同士作り方など情報交換が活発に行われました。

普及センターでは、これからも地域の特産品等の伝承に向けて、様々な方面から支援して参ります。

**○やくらい土産センター栽培管理能力向上研修会
「高温対策編」を開催しました**
令和6年12月10日
大崎農業改良普及センター



加美町の薬菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与しています。しかし、ここ数年は販売面等での課題が見られることから、普及センターと加美町では

栽培技術や法人の経営力向上のための支援を行っています。

一方、令和5年、6年と高温の年が続くなど今後も異常気象の発生が懸念されるため、野菜の栽培が年々難しくなっていくことが予想されます。そこで、令和6年12月4日に当普及センターと加美町の共催で「やくらい土産センター栽培管理能力向上研修会「高温対策編」」を開催しました。

普及センター職員から過去2年間の販売状況について情報提供を行った後、株式会社渡辺採種場の職員から「夏期の高温に対応した野菜の栽培について」と題した講演をいただき、種子の発芽には温度、水分、酸素、光の4つの要素が関与しているため、高温期の育苗は特に温度管理が重要であること、高温時の灌水の注意点とタイミング、時期ごとのマルチの使い分けなど高温年において特に注意すべき管理について詳しく解説していただきました。

今回の研修会には生産者29名が参加し、今後の収量、品質の向上が期待されます。

普及センターでは、高温年においても農産物直売所やくらい土産センターから消費者の皆様へ新鮮で品質の良い農作物を提供できるよう様々な支援を行っていきます。

○仙台市の地域計画座談会が開催されました
令和6年12月26日
仙台農業改良普及センター



仙台市の将来の農地利用の姿を明確にする地域計画の策定に向け、12月18日に岩切地区、20日に西多賀地区、23日に生出地区、そして24日に根白石地区で、地域農業者による座談会が開催されました。

地域計画の目標地図の作成に向けては、仙台市が中心となって今年始めから夏にかけて協議の場を設けており、10年後の耕作者の名前を地図に落とし込むなどの作成作業を進め、地域農業の将来について話し合ってきました。

今回は、地域の中心経営体に目標地図の原案を確認いただき、最終的な調整を行いました。この結果を基に、今年度中に各地域の地域計画が策定される見込みです。

地域計画の策定後も、各地域の将来の農業の在り方について定期的に見直していく必要があるため、普及センターとしては、今後も地域の農業者に寄り添った支援を続けてまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.215

発行日:2025年1月23日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp